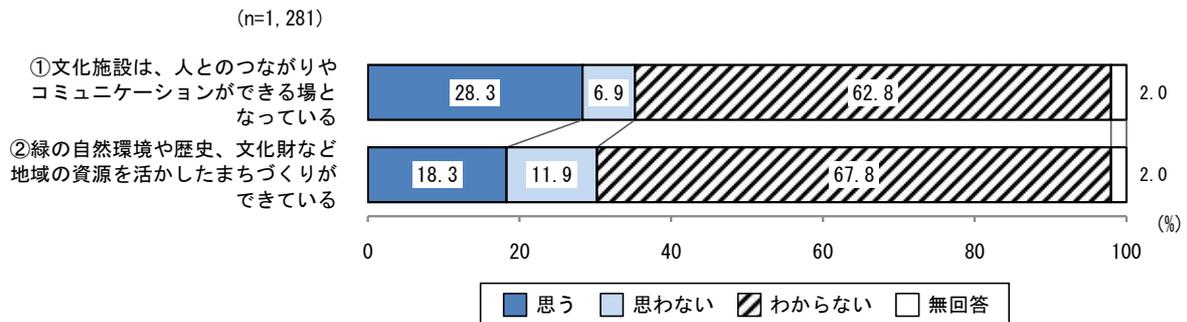


3. 本市の文化芸術について

問 17 本市のこれまでの文化芸術の取組について、どのように思いますか。
 (○はそれぞれ1つ)

図 3-1 本市のこれまでの文化芸術の取組について

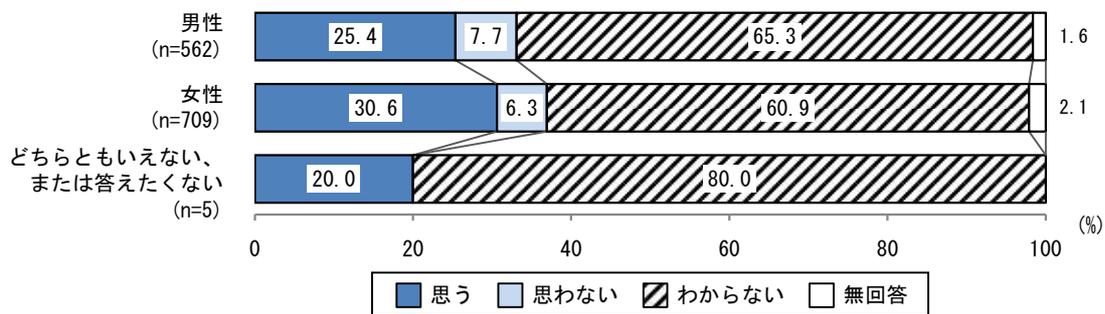


本市のこれまでの文化芸術の取組についてたずねた。

「①文化施設は、人とのつながりやコミュニケーションができる場となっている」について、「思う」が28.3%、「思わない」が6.9%となっている。

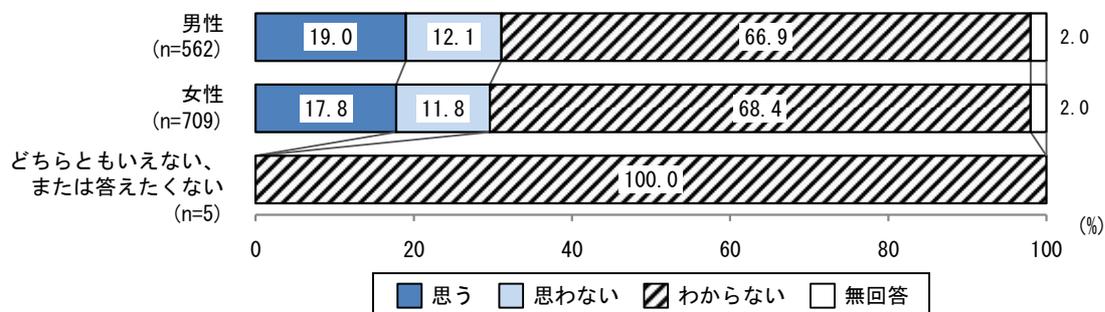
「②緑の自然環境や歴史、文化財など地域の資源を活かしたまちづくりができています」について、「思う」が18.3%、「思わない」が11.9%となっている。(図 3-1)

図 3-2 性別 本市のこれまでの文化芸術の取組について
①文化施設は、人とのつながりやコミュニケーションができる場となっている



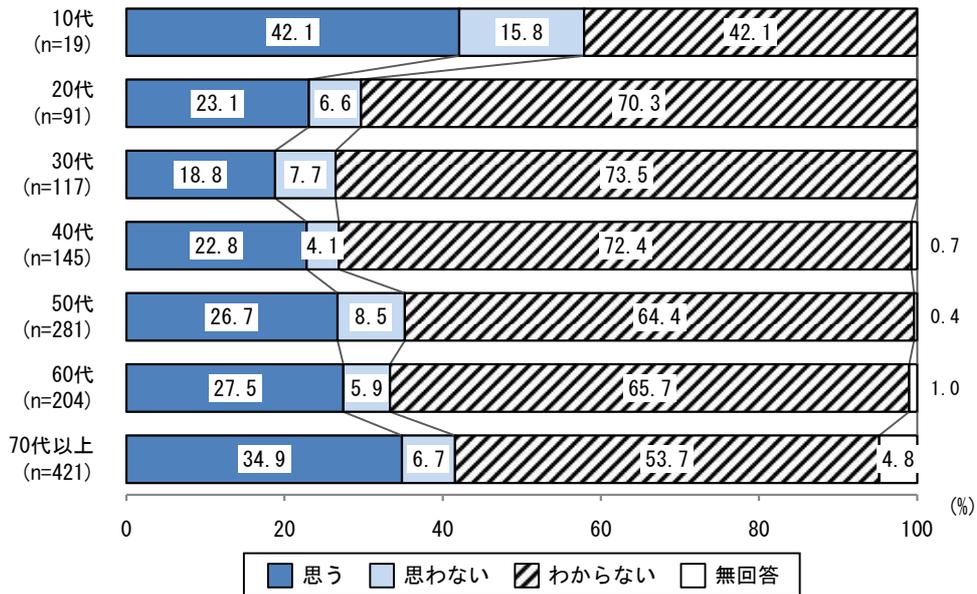
「①文化施設は、人とのつながりやコミュニケーションができる場となっている」を性別にみると、「思う」が女性で30.6%と、男性の25.4%を5.2ポイント上回っている。(図 3-2)

図 3-3 性別 本市のこれまでの文化芸術の取組について
②緑の自然環境や歴史、文化財など地域の資源を活かしたまちづくりができています



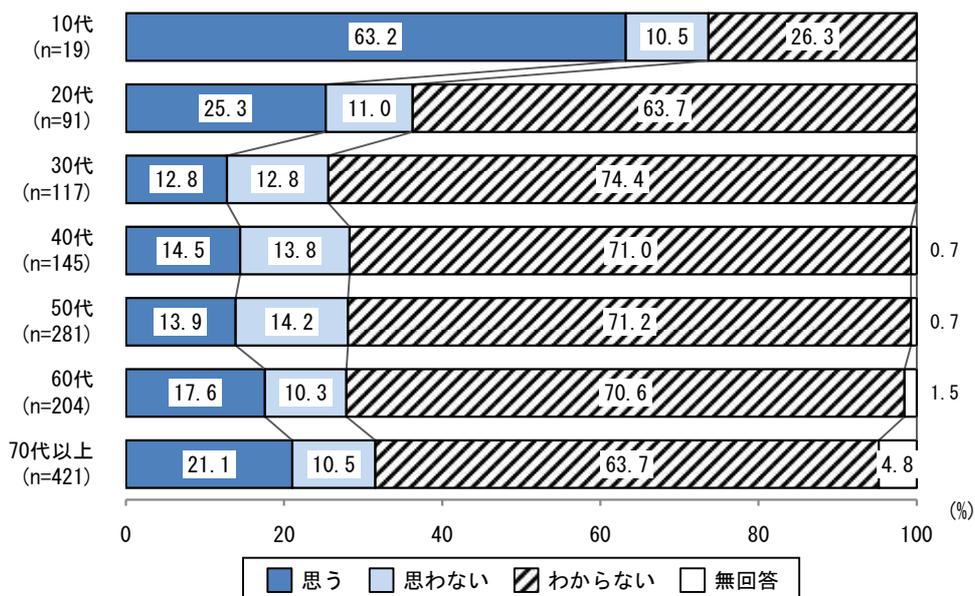
「②緑の自然環境や歴史、文化財など地域の資源を活かしたまちづくりができています」を性別にみると、男女ともに「思う」が2割弱となっている。(図 3-3)

図 3-4 年代別 本市のこれまでの文化芸術の取組について
①文化施設は、人とのつながりやコミュニケーションができる場となっている



「①文化施設は、人とのつながりやコミュニケーションができる場となっている」を年代別にみると、「思う」が10代で42.1%と最も高く、次いで、70代以上で34.9%、60代で27.5%となっている。(図 3-4)

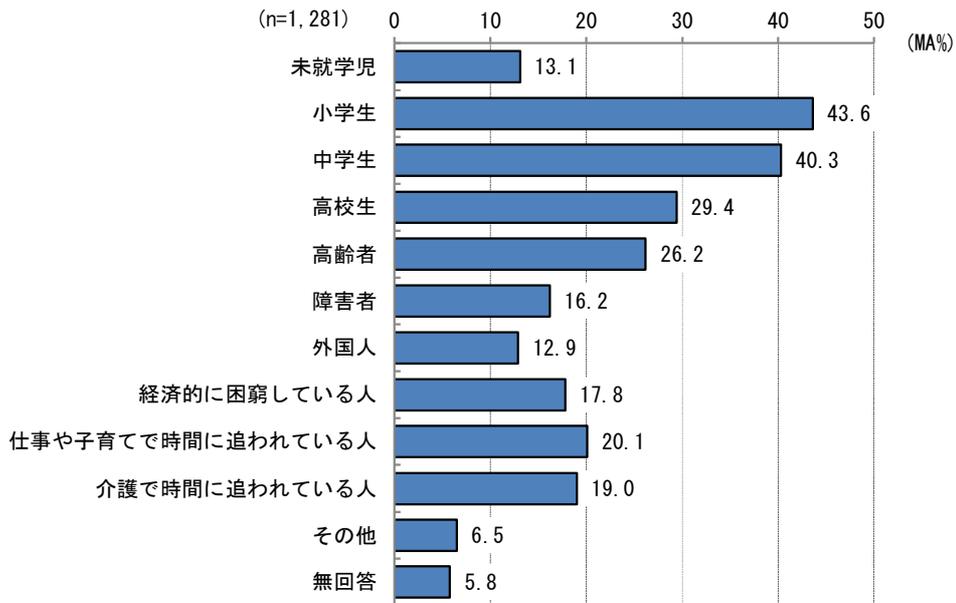
図 3-5 年代別 本市のこれまでの文化芸術の取組について
②緑の自然環境や歴史、文化財など地域の資源を活かしたまちづくりができています



「②緑の自然環境や歴史、文化財など地域の資源を活かしたまちづくりができています」を年代別にみると、「思う」が10代で63.2%と最も高く、次いで、20代で25.3%、70代以上で21.1%となっている。(図 3-5)

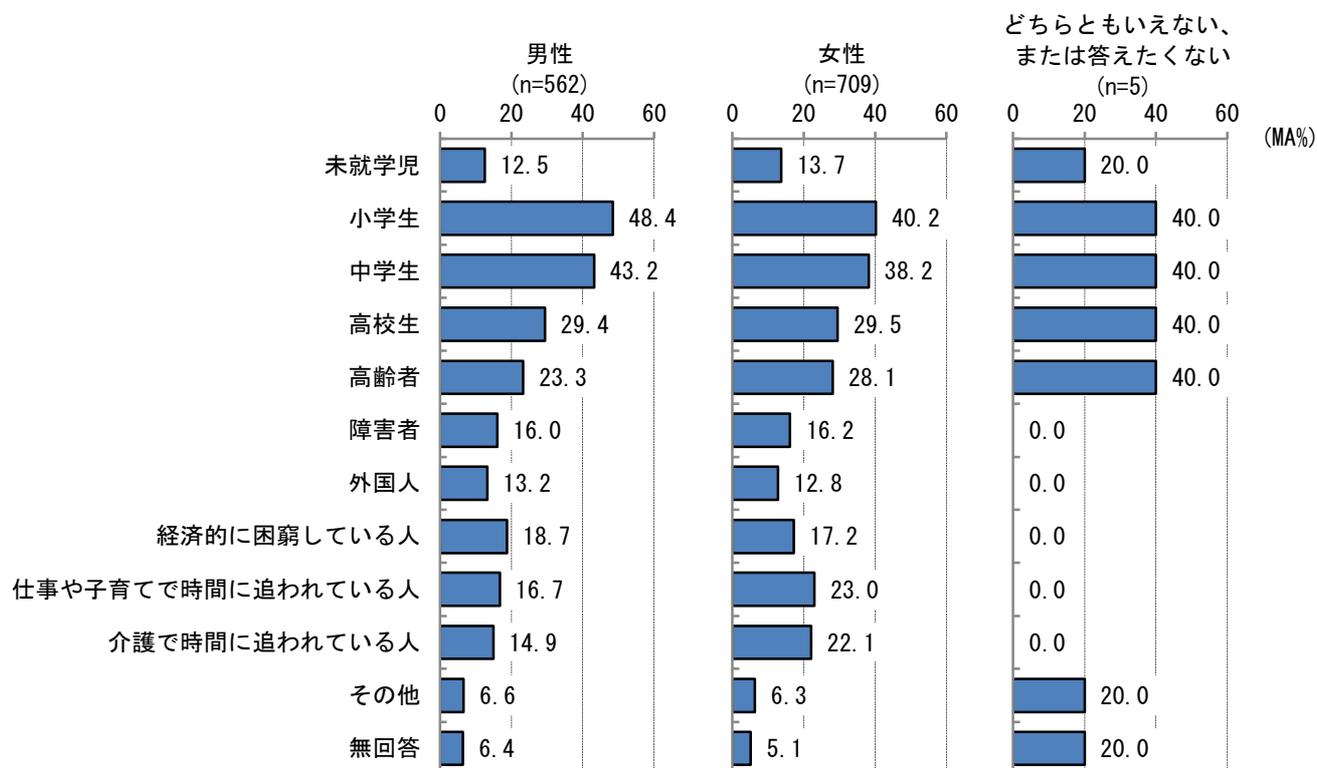
問 18 年齢や性別、障害、国籍などを問わず、すべての人が等しく文化芸術に触れる権利があるとされています。本市ではどのような人にむけて、文化芸術に触れる機会を提供すべきだと思いますか。(〇は3つまで)

図 3-6 どのような人にむけて
文化芸術に触れる機会を提供すべきか



どのような人にむけて文化芸術に触れる機会を提供すべきかをたずねた。「小学生」が43.6%と最も高く、次いで、「中学生」が40.3%、「高校生」が29.4%、「高齢者」が26.2%、「仕事や子育てで時間に追われている人」が20.1%となっている。(図 3-6)

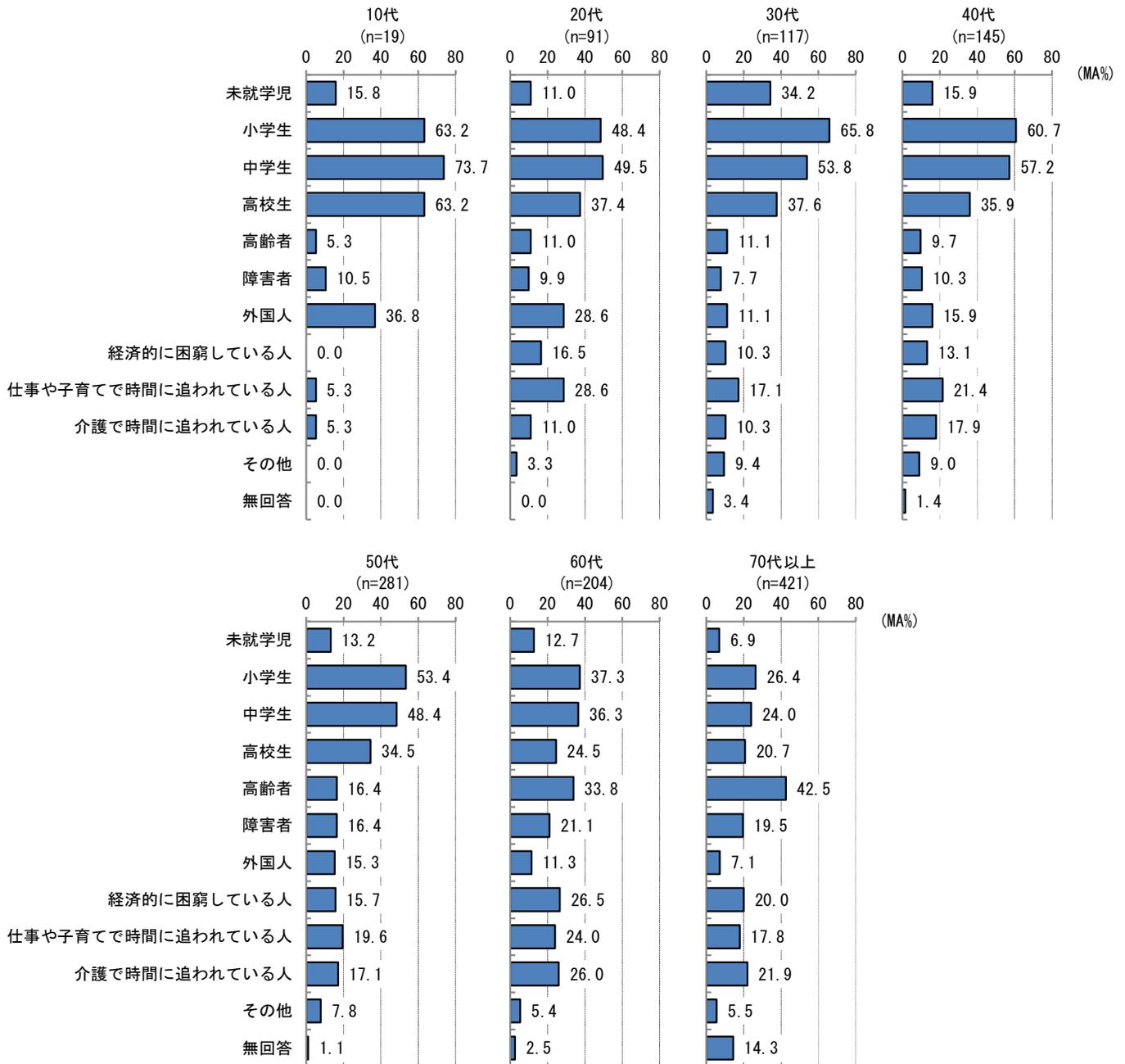
図 3-7 性別 どのような人に向けて
文化芸術に触れる機会を提供すべきか



性別にみると、男女ともに「小学生」が最も高く、男性で48.4%と、女性の40.2%を8.2ポイント、「中学生」が男性で43.2%と、女性の38.2%を5.0ポイント上回っている。

一方、「介護で時間に追われている人」が女性で22.1%と、男性の14.9%を7.2ポイント、「仕事や子育てで時間に追われている人」が女性で23.0%と、男性の16.7%を6.3ポイント上回っている。(図 3-7)

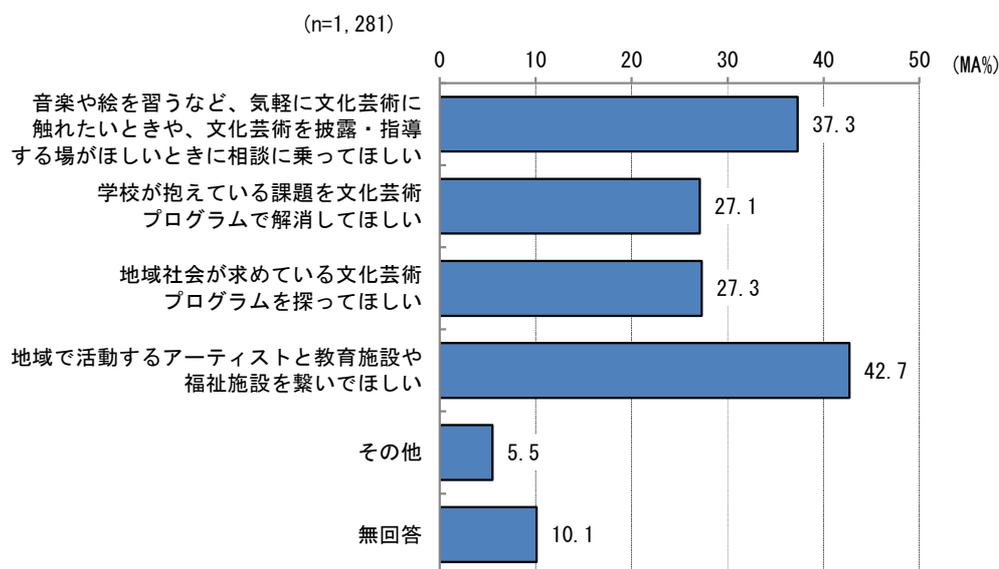
図 3-8 年代別 どのような人に向けて
文化芸術に触れる機会を提供すべきか



年代別にみると、10代・20代で「中学生」が最も高く、特に10代で73.7%となっている。30代～60代で「小学生」が最も高く、特に30代で65.8%となっている。70代以上で「高齢者」が42.5%と最も高くなっている。(図 3-8)

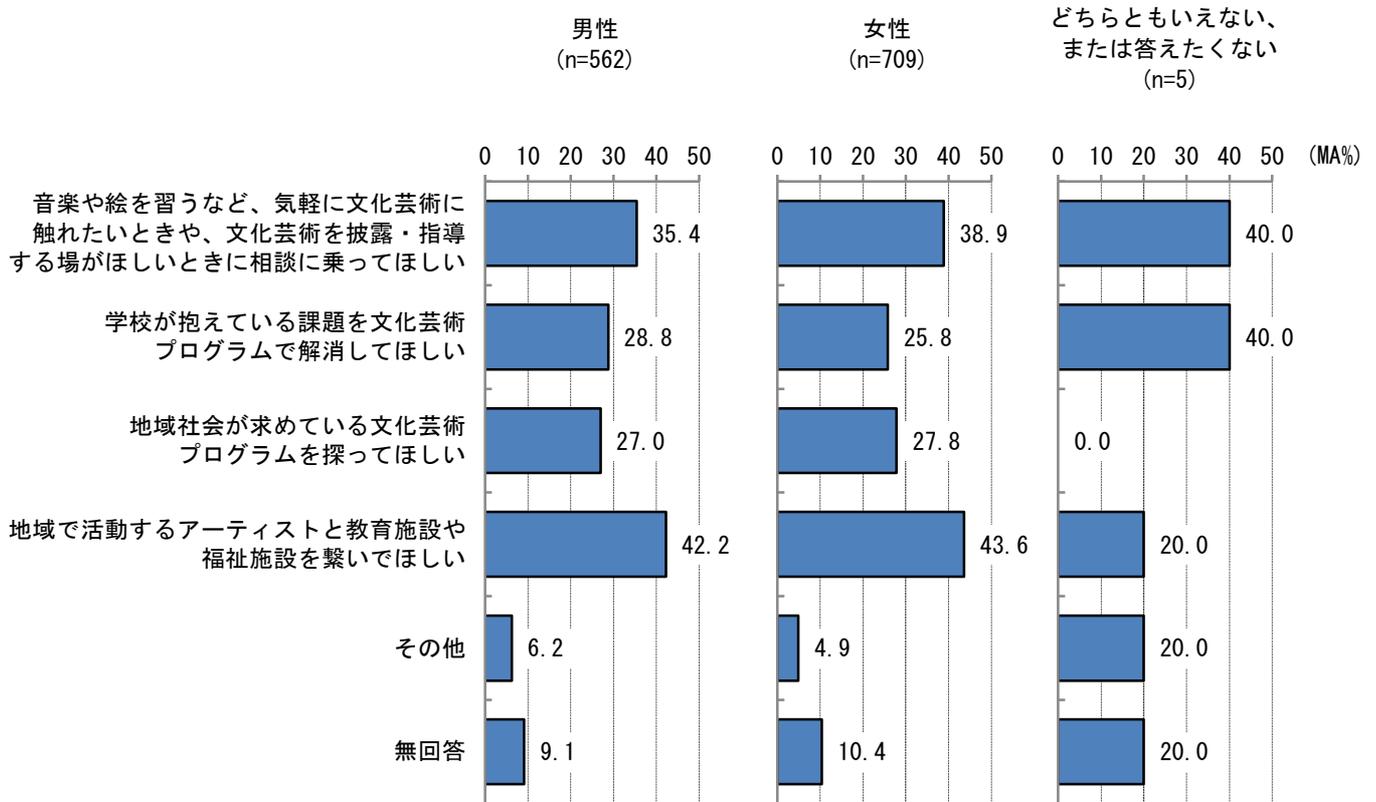
問 19 市民と文化施設、市民とアーティストをつなぐ役割を担う「アートコーディネーター」がいた場合、どのような役割を期待しますか。
 (〇はいくつでも)

図 3-9 アートコーディネーターがいた場合
 どのような役割を期待するか



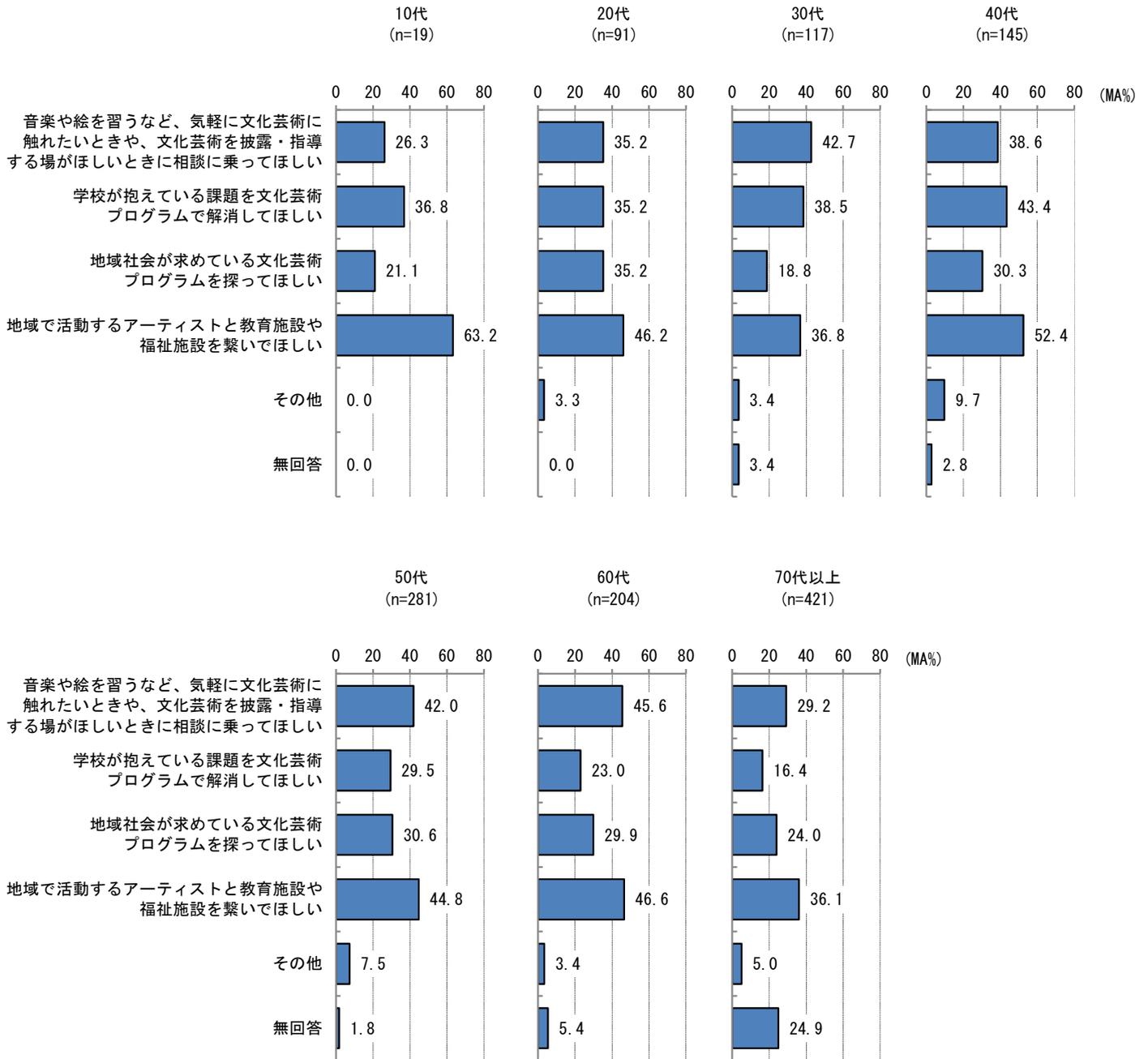
アートコーディネーターがいた場合どのような役割を期待するかをたずねた。「地域で活動するアーティストと教育施設や福祉施設を繋いでほしい」が42.7%と最も高く、次いで、「音楽や絵を習うなど、気軽に文化芸術に触れたいときや、文化芸術を披露・指導する場がほしいときに相談に乗ってほしい」が37.3%、「地域社会が求めている文化芸術プログラムを探してほしい」が27.3%、「学校が抱えている課題を文化芸術プログラムで解消してほしい」が27.1%となっている。(図 3-9)

図 3-10 性別 アートコーディネーターがいた場合
どのような役割を期待するか



性別にみると、男女ともに「地域で活動するアーティストと教育施設や福祉施設を繋いでほしい」が4割強と最も高くなっている。(図 3-10)

図 3-11 年代別 アートコーディネーターがいた場合
どのような役割を期待するか



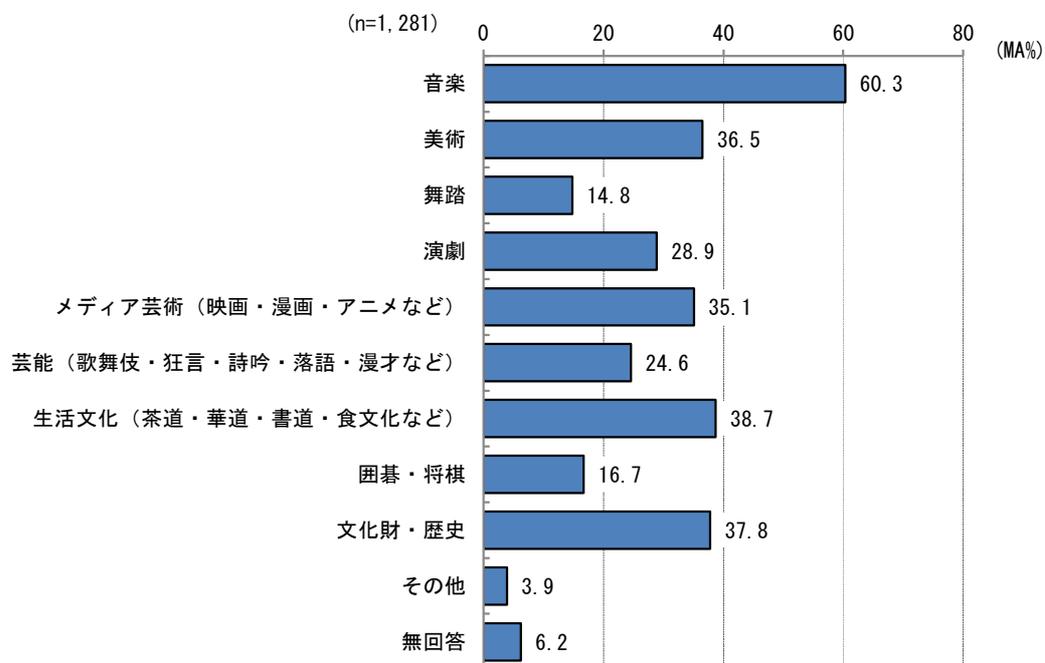
年代別にみると、30代以外のすべての年代で「地域で活動するアーティストと教育施設や福祉施設を繋いでほしい」が最も高く、特に10代で63.2%となっている。

一方、30代で「音楽や絵を習うなど、気軽に文化芸術に触れたいときや、文化芸術を披露・指導する場がほしいときに相談に乗ってほしい」が42.7%と最も高くなっている。

(図 3-11)

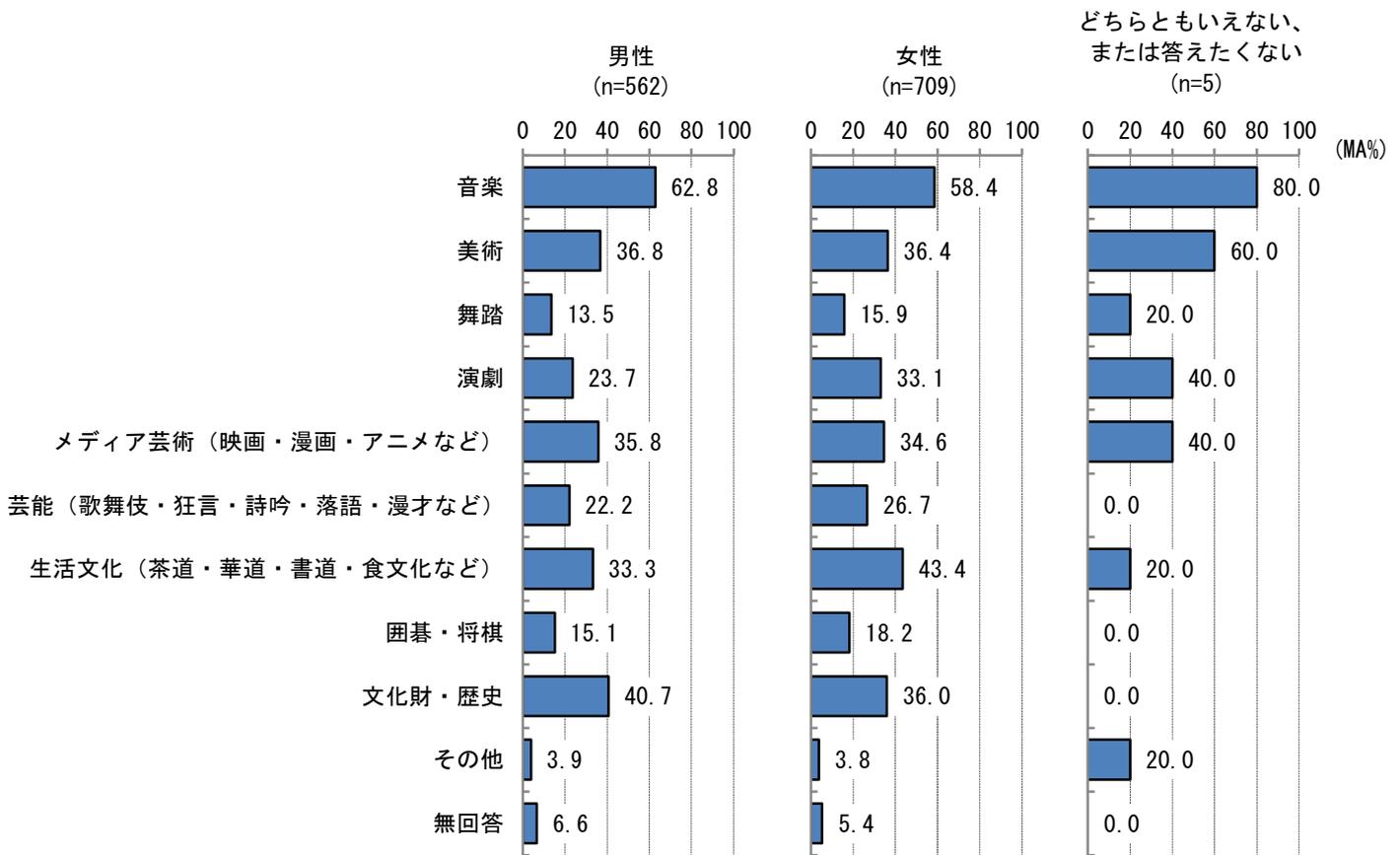
問 20 子どもに向けた文化芸術事業について、どのような事業を実施するべきだと思いますか。(〇はいくつでも)

図 3-12 どのような事業を実施するべきだと思いますか



どのような事業を実施するべきだと思いますかをたずねた。「音楽」が 60.3%と最も高く、次いで、「生活文化 (茶道・華道・書道・食文化など)」が 38.7%、「文化財・歴史」が 37.8%、「美術」が 36.5%、「メディア芸術 (映画・漫画・アニメなど)」が 35.1%となっている。(図 3-12)

図 3-13 性別 どのような事業を実施すべきだと思うか

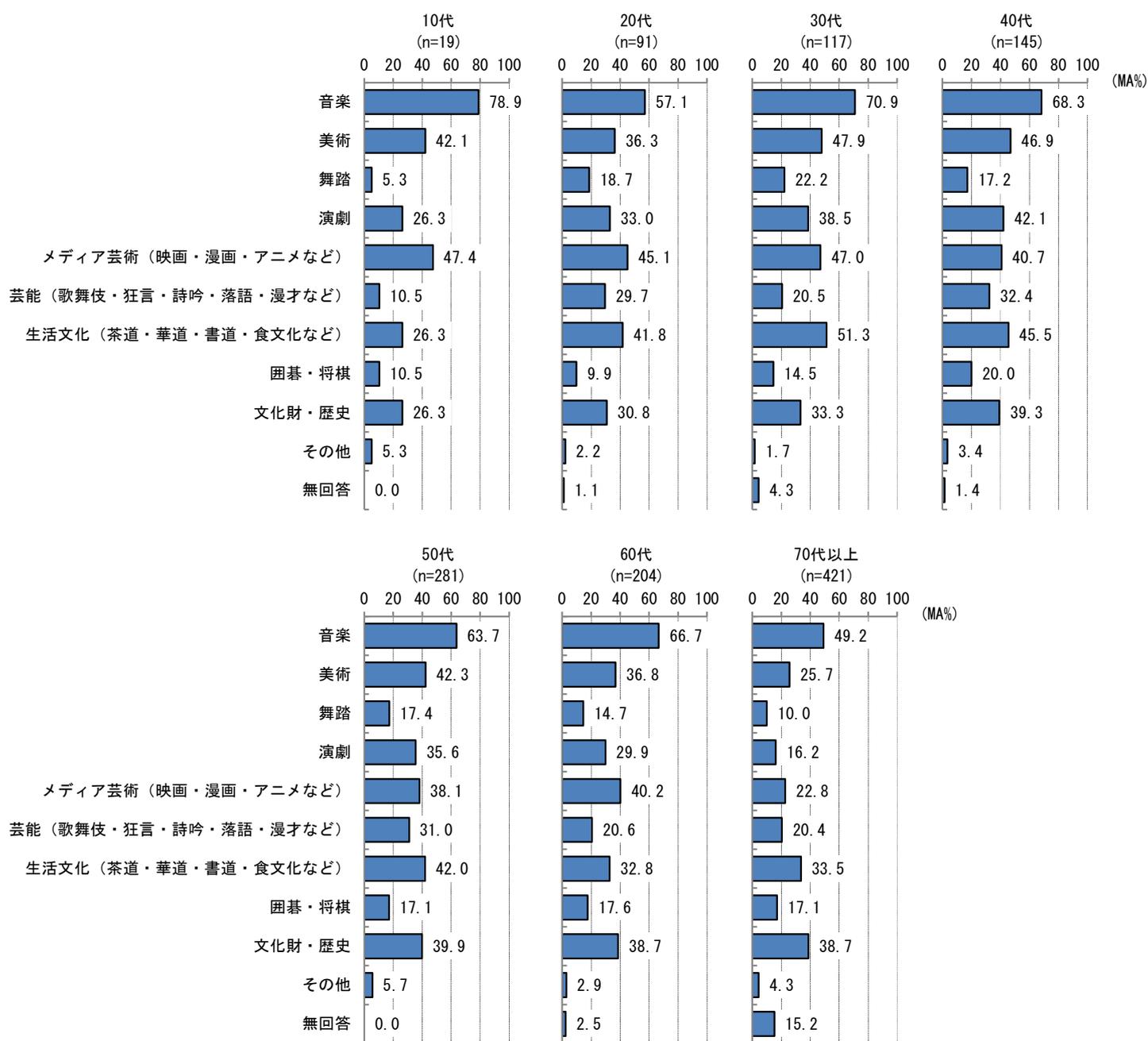


性別にみると、男女ともに「音楽」が最も高く、男性で62.8%となっている。

一方、「生活文化（茶道・華道・書道・食文化など）」が女性で43.4%と、男性の33.3%を10.1ポイント、「演劇」が女性で33.1%と、男性の23.7%を9.4ポイント上回っている。

(図 3-13)

図 3-14 年代別 どのような事業を実施するべきだと思うか



年代別にみると、すべての年代で「音楽」が最も高く、特に10代で78.9%となっている。(図 3-14)